

はるかな尾瀬

—目次—

- 02 特集 「尾瀬サミット2017」「尾瀬国立公園10周年記念式典」を開催しました！
- 04 第4次尾瀬総合学術調査レポート① 総合学術調査始動！
- 05 尾瀬の外来植物対策
- 06 現地情報
 - ①原をわたる風だより
 - ②おこじょだより
- 08 TOPICS
- 09 尾瀬ボランティア情報
- 10 尾瀬保護財団からのお知らせ



2017.11 vol.35
(公財)尾瀬保護財団



会津駒ヶ岳 撮影日：平成29年10月18日

特集

「尾瀬サミット2017」 「尾瀬国立公園10周年記念式典」 を開催しました

尾瀬関係者が一堂に会し、尾瀬に関わる課題などを話し合うため、毎年開催している尾瀬サミットが、平成29年8月30日と31日の両日にわたり、群馬県片品村で開催されました。

今回のサミットは、参加者がそれぞれの立場から「尾瀬の未来を考える」意見発表の場として2部構成での開催となり、第1部は若い世代からの意見発表を、第2部は例年のサミット参加者（財団理事、評議員）等からの意見発表を、それぞれ行っていた。

また、平成29年8月30日に、尾瀬国立公園が日光国立公園から分離・独立して10周年を迎えることを記念し、尾瀬サミットにあわせて、「尾瀬国立公園10周年記念式典」も開催されました。

尾瀬サミット2017

8月30日に片品村内の尾瀬ふらり館で開催された「第1部」では、群馬県事業として小中学生を対象に実施されている「尾瀬学校」にかつて参加した大学生や、群馬県



▲ パネルディスカッションの様子

立尾瀬高校の現役高校生による意見等の発表やパネルディスカッションが行われました。

尾瀬学校参加者による意見発表では、尾瀬学校の体験が環境に興味を持つきっかけとなり、その後の進路に影響したことなどの発表がありました。

また、尾瀬高校生からは、授業や部活で取り組むシカの食害などの調査活動の発表が行われました。

尾瀬学校参加者と尾瀬高校生がパネリストとなり行われたパネルディスカッションでは、これからの尾瀬の担い手として、尾瀬を守り楽しむという観点から熱心な意見交換が行われました。

この意見交換の中では、次のような意見が交わされました（一部抜粋）。

- ・大学の同級生で尾瀬を知らない人も多くいるので、もっと尾瀬の認知度を上げるのが尾瀬を守る上でも重要だと思う。
- ・若い世代に尾瀬を知ってもらうためには、自然や様々な取り組み等をしつかりSNS等で情報発信することが大切だと思う。
- ・尾瀬は様々な環境が入り組んでいて面白く、ガイドも数多くいるので、子どもたちが自然を知る一歩に繋がる良い場所だと思う。
- ・山小屋が充実していて、自然への入門として最適。もっと夜の時間を推して見るといい。
- ・外国人にももっと尾瀬の魅力を知って欲しい。
- ・多くの人が来るようになると、以前のような自然の荒廃が懸念される。より一層のルール・マナーの啓発が大切になる。

翌31日に同村内の尾瀬高原ホテルで開催された「第2部」では、例年のサミット参加者である財団理事や評議員に加え、財団の活動に対して多大な貢献のある企業を友の会特別会員としてお招きし、将来を見据えた尾瀬のあり方に関する意見を発表していただきました。

この意見発表の中では、次のような意見が交わされました（一部抜粋）。

- ・ニホンジカによる被害への対応
- ・尾瀬の自然環境の保護
- ・若い利用者の増加策
- ・尾瀬をフィールドとした環境教育の推進

- ・ 少子高齢化社会への対応
- ・ 新たな尾瀬の楽しみ方
- ・ 周遊型や滞在型、閑散期利用の促進

- ・ 外国人入山者への対応
- ・ 効果的な情報発信のあり方
- ・ 登山道整備のあり方

また、サミット第2部の開催前には、同ホテル内で当財団評議員の関根進氏による「山小屋の機能役割」の説明、理事の千明金造氏による「身障者限定の尾瀬ツアー」の説明、評議員の八木原聡明氏による「登山利用から見た尾瀬の魅力」と題したスライドレクチャーが行われ、サミット参加者の皆さんは熱心に聴き入っていました。

尾瀬国立公園10周年記念式典

8月30日に片品村内の尾瀬ふらり館で尾瀬国立公園10周年記念事業実行委員会主催による「尾瀬国立公園10周年記念式典」が開催されました。

式典では、主催者を代表し大澤正明群馬県知事と笹川博義環境省環境大臣政務官による挨拶の後、記念イベントとして、尾瀬山の鼻ビジターセンターと尾瀬沼ビジターセンターに設置される「メッセージだるま」の除幕、目入れが行われました。

最後に、一般来場者の皆さんにもご参加をいただき、「夏の思い出」を合唱し、祝賀ムードが会場全体に漂う中、閉会となりました。



▲ サミット第2部で挨拶をする大澤理事長

尾瀬高校生による▶
メッセージだるまの除幕



▼ 関係市町村による振る舞い・物品販売



なお、会場内では、関係市町村として、群馬県片品村、福島県檜枝岐村、南会津町、新潟県魚沼市による地元物産品の振る舞いや物品販売も行われ、多くの一般来場者で賑わいました。

第4次尾瀬総合学術調査レポート①

総合学術調査始動!

いよいよ約20年ぶりの尾瀬総合学術調査(第4次)が始まりました。第1次(1950~1952)~第3次(1994~1997)までの学術調査では、尾瀬の自然環境をから調べ上げ、また尾瀬での自然の成り立ち、自然現象や物質の流れ、生息する生物に関する研究が行われてきました。今回の第4次調査では、二ホンジカや気候変動の影響による尾瀬の自然環境の変化が懸念されていることから、これらの影響把握、これから尾瀬の自然を監視していくために必要な基礎情報の整備とその公開を目標にしています。6月から始動した総合学術調査の、現在までの動きを紹介したいと思います。

総合学術調査キックオフ

6月のはじめに、第4次尾瀬総合学術調査団長の坂本充先生(名古屋大学名誉教授)をはじめ、4名の研究者が参加してのキックオフセレモニーが行われました。ここでは、調



▲ 学術調査の趣旨説明を行う坂本調査団長
(2017.6.5 鳩待峠)

査団長からの趣旨説明が行われ、初回調査として、残雪状況の調査などが行われました。

調査の様子

植物目録作成のための調査の一環として、水草の調査も行われています。中でも、コウホネの仲間尾瀬に数種類存在するそうので、オゼコウホネをはじめとして、DNAからそれらの類縁関係を探る研究も進められています。



▲ 水草の標本採取の様子 2017.8.27 尾瀬ヶ原
(撮影：大森威宏 調査団実行役員)

動物分野では、まずコウモリ類や、水生昆虫類の調査が進められています。コウモリ類は、これまでにヒメホオヒゲコウモリ(写真)を含む9種が確認されました。今回の調査では、ドローンを用いた空撮測量と、それに基づく植生図の作成、植物の分布状況調査が始められています(写真)。

総合学術調査は平成31年度までの3年間行われ、このほか様々な分野の調査が行われます。その様子や成果を今後もお知らせしていきますので、ご期待ください。

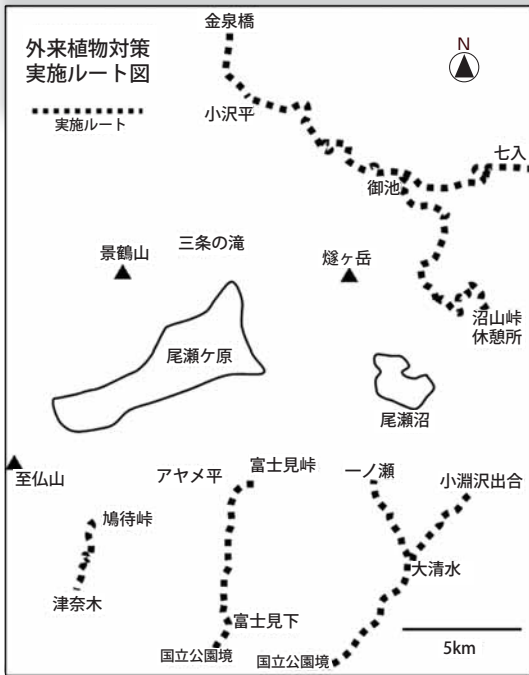


▲ ドローンによる空撮測量の準備中
2017.9.5 中田代



▲ 捕獲して識別のための目印をつけている
ヒメホオヒゲコウモリ(撮影：大沢夕志 協力員)

尾瀬の外来植物対策



尾瀬での外来植物対策としては、過去に山小屋周辺に侵入したシロツメクサやヒメジョオンなどの駆除が行われたことがありますが、人の踏みつけにより裸地になった場所が、生育するのみで、湿原内への分布拡大は認められないことから、有識者の見解を受けて、特別保護地区内における外来植物の駆除は行わないこととしています。一方、特別保護地区の外においては、オオハンゴンソウ（特定外来生物：環境省）、ハルザキヤマガラシ（日本の侵略的外来種ワースト100・日本生態学会）の生育が報告され、一部においてNPOによる駆除活動が行われて来ましたが、より大がかりな対策が求められていました。そこで尾瀬保護財団では、平成29年度から特別保護地区に至る登山口へ接続する車道沿いにおいて（図）、関係機関に協力を呼びかけながら外来植物対策活動を開始しました。対策の内容は、まず特定の外来植物の分布状況の調査を行い、その中で明らかにした特定の外来植物の生育地において駆除活動を行って行くというものです。対策実施にあたり



▲ 分布調査とハルザキヤマガラシの駆除（七入付近）



▲ 鳩待峠～津奈木でのハルザキヤマガラシの駆除作業

ての協力機関は、環境省、会津森林管理署南会津支署、福島県、群馬県、檜枝岐村、片品村、東京電力ホールディングス株式会社、東京パワーテクノロジーロジック株式会社となっています。今年度は、福島県側のルートでの分布調査と、オオハンゴンソウ、ハルザキヤマガラシの駆除活動、群馬県側での両種の駆除活動を行いました。群馬県側での駆除活動には、尾瀬ボランティアと、NPO法人片品・山と森の学校にも協力いただきました。



▲ 小沢平でのオオハンゴンソウの駆除成果



▲ 富士見下～国立公園境でのオオハンゴンソウの駆除成果と協力者

原をわたる風だより 山の鼻ビジターセンターより 今シーズンを振り返って...

以下の記録はある管理員の日記からの抜粋です。原稿メ切的関係から9月下旬までの約5ヶ月間の記事の中から、いくつかのものをここに紹介し、今シーズンの振り返りとなります。

- 【5月8日】これからの尾瀬での集団生活、合宿のようなものか。まったく想像がつかない。不安が150%。
- 【5月10日】本日、尾瀬に入る。
- 【5月12日】4時30分起床。小雨降る中、外へ出る。燧ヶ岳、至仏山ともに見えず。9時10分頃、ヘリ飛来。あの爆音あの爆風の中、上下で連携し、荷物を確実に上げ降ろしていた。何故か、思わず涙が出た。夜軽く飲む。若い人には着いていけねえと弱気になる。
- 【5月15日】山の鼻ビジターセンター開所式。5時15分起床。6時過ぎ朝食。6時30分から清掃。7時より早番。説明を受けながらビジターセンターを開け、気象観測も行ない、ブログ更新もやり、開所式準備もテキパキと。11時頃、開所式スタート。参加者約30人。
- 【5月16日】午後、見本園を歩く。まだ多くの雪が残る中、せせらぎの音を聞きながら、穏やかな日差しの下、ゆったりとした時間の流れを楽しむ。
- 【5月25日】受付に英語しか話せないタイ人カップルがやって来た。尾瀬も

インターナショナルだ。

【5月27日】7時勤務開始。来客数がグッと増え、それにクマ騒動が加わった。山ノ鼻と鳩待峠間にクマがいたとの情報が次々と入り、その対応に大わらわ。そこへ傷病人発生の報も入る。その様な中、私はウロウロしていたのみ。

【6月2日】雷雨、雹が降る

タイムマシン3号というコメディアンが来て、群馬テレビの録画撮り。主に所長が対応、内心は冷や汗ものだったと言っていたが、はた目には余裕が感じられた。本日より支援ボランティアのーさん、来たる。20年目だとか。

【6月7日】甲信越地方、梅雨入り。

【6月10日】見本園内にシカ柵設置。NHKの取材あり。午後7時より、Eさんのスライドレクチャー。たくさん情報を短時間に伝えようと一生懸命だった。

【6月14日】オッ？！初めてクマを見た。大きくて存在感ある堂々とした背中が、湿原を駆け抜けて行った。

【6月16日】尾瀬学校の子供たちがたくさんやって来た。午後、ひとりの子が体調不良で動けず。谷川警備隊、出勤。子供を背負って鳩待峠まで帰って行った。感動。夜、Kさんのスライドレクチャー。落ち着き、お客さんの声もくみ取りながら自分の得意な世界で勝負していた。

【6月18日】業務にて至仏山、初登頂。

【6月21日】雨天のため、尾瀬学校もすべて中止となり、訪れる人影もまばら。



【6月22日】夕食はパンとシチュー。この山の中でパンを焼こうという発想に脱帽です。

【6月24日】シカ柵立て作業。初めて湿原に足を踏み入れる。手付かずの池塘や浮島がそこにあつた。別天地、桃源郷、ユートピア、本当に宝物だ。

【7月1日】本日、至仏山開山。生憎の空模様。朝観察会に14名、終了後に拍手までいただき元気が出た。

【7月2日】外は雨。テンション下がりがつぱなし。

【7月6日】「白い虹」を初めて見る。

【7月8日】来客数、多目。そついつ中、傷病人対応。Sさん、Mさんが先々を見通しながら動き、私にも指示を出してくれた。ヘリによるピックアップ終了後、クマ出現という情報で再出勤。

【7月15日】八木沢巡回。Mさん大転倒し、メガネ曲がる。

【7月19日】梅雨明け

【7月22日】夕方、ドシヤ降りの雨。7時よりSさんのスライドレクチャー。素晴らしい事前準備で説得力あるものになっていた。見習つべき也。

【7月30日】やっと夏空がやって来た。

【8月1日】本日、Yくんの誕生日。手作りパイとアイスクリームでお祝い。

【8月5日】群馬県副知事、尾瀬視察。

【8月11日】突然、N氏夫妻来訪。退院して元気も出て来たので尾瀬にやって来たとか、感謝なり。お元気で。

【8月20日】10時前、再びテンマ沢でクマ出現の報。木道脇に平然と居座り、動く気配がない状態。クマスプレー、動物駆逐用三連発を使って追い払う。午後は平穏に戻る。

【8月26日】9時頃、天候急速に回復。

【9月9日】透明感のある晴天。

【9月10日】朝からクマ対応に追われ、気力体力ともに消耗。

【9月12日】本日「山ノ鼻十一山神」祭りの日。見本園入口の山神を見つめていたらフツと解放された気分になった。

【9月18日】台風18号の影響で昼近くまで停電。カーブ優勝。

【9月19日】文字通りの台風一過！

【9月25日】燧ヶ岳初登頂。「厳父」と称されるだけの厳しさあり。

【8月5日】群馬県副知事、尾瀬視察。

【8月11日】突然、N氏夫妻来訪。退院して元気も出て来たので尾瀬にやって来たとか、感謝なり。お元気で。

【8月20日】10時前、再びテンマ沢でクマ出現の報。木道脇に平然と居座り、動く気配がない状態。クマスプレー、動物駆逐用三連発を使って追い払う。午後は平穏に戻る。

【8月26日】9時頃、天候急速に回復。

夕方、至仏山は真っ赤な夕陽に包まれる。尾瀬はもう秋の気配濃厚なり。

【9月8日】今日も一日クマさんに右往左往。シウリサクラの木に登り実を食べる行動に走っている。少し前は、ミズバシヨウだったのに。季節の移り変わりにクマも私たちも翻弄されている。

【9月18日】台風18号の影響で昼近くまで停電。カーブ優勝。

【9月19日】文字通りの台風一過！

【9月25日】燧ヶ岳初登頂。「厳父」と称されるだけの厳しさあり。

大自然の偶然の産物として出来上がった尾瀬。そのかけがえのない宝物を次の世代へ引き継ごうと努力している数多くの人々の中に突然やって来た私たち。それぞれの事情を抱えながらも、一緒に生活する中で、偶然の出会いを必然に変えていくワクワク感を感じながら過ごした日々。この濃密な半年間は私たちの人生の中でも特別なものとなりました。

最後に、私達と出会い、沢山のことを教えていただいたり、また私たちの成長を暖かく見守っていただいた方々に感謝の気持ちを伝え、結びとします。本当にありがとうございました。

(入倉 修平)

現地情報

おごじよだより

尾瀬沼とジッターセンターより

今シーズンを振り返って...

5月に尾瀬に入った時、尾瀬は一面の雪で、少しの不安を抱きつつ、これからの半年が長く感じられました。しかし、過ぎてしまえば、あっという間の半年でした。今は尾瀬のシーズンがもう少し長ければと思っています。

今シーズンもいろいろありました。雪解けが遅くて、6月でもあちらこちらに残雪があったこと。傷病者が出た時には、夜遅くまで職員みんなが救助にがんばったこと。たまの休みでは、街で食料を買って上がりますが、数十キロの荷物が重くて大変だったこと。今となつてはよい経験と思つています。最後に、このすばらしい尾瀬の自然がいつまでも続くことを祈つています。

(阪路 善彦)

「半年間ほんとあつといつの間だから！ぼけーつとしてるとすげえ終わっちゃうよ。やりたい企画ほとんどやらっていかないと」と言つてたなあ私。つて、ほんとに終わっちゃうわ。と最近感じています。

私自身、みんなに発破を掛けていたものの、この半年で何が出来たんだろうと振り返ってみると、1人でやったことは1つもなくて、どの場面も職員8人での協力作業でした。今シーズンは女子力の高いジッターセンターを目指し、男性陣のユーモアに支えられ、入山者の方にも喜んでいただけた運営

ができたのではないかと思つています。来シーズンはどんな個性派が揃うのか、皆さんご期待ください。

(佐々木 彩乃)

「梅鉢咲く秋〜5年の感謝を込めて〜」



いつも休日に足を運んでいる檜枝岐村の盛大な盆踊りを見た次の朝、尾瀬沼に戻るとすっかり景色は秋に移り変わり祖母の好きなウメバチンウが咲いていました。

尾瀬の仕事に携わる方々や登山に訪れる人々をはじめ周辺の村や町の方々、故郷の家族や友人に支えられながら、今年度も無事にこの季節を迎えられた事を心から感謝の意を申し上げます。尾瀬にいられる時間もあとわずかになりましたが、来年の尾瀬での新たな出会いや発見を楽しみにしながら日々精進してゆきたいと思つています。どうぞ今後ともよろしくお願ひいたします。

(川上 藍)

尾瀬の自然の流れを感じながらの半年間の生活は、本当にあつといつの間過ぎていきます。2年目のお仕事でしたが、今年より一層尾瀬の自然の美しさに感動することの多かつたシーズンだったように感じます。毎日生活をしているにもかかわらず、日々変化していく風景に、飽きることなく過ごすことができる尾瀬。そしてそこで生活を共にする仲間との出会いもあり、今シーズンもここで働くことができ、本当に良かったと思つています。

(江崎 花絵)

「いろいろと学ばせていただきありがとうございました」



ジッターセンターの仕事を通じて、日本に多くあつた湿原が開発でなくなる中、尾瀬は奇跡的に残され守られてきていること。それが、どれだけの素晴らしいかということを実感することができました。そして、尾瀬を愛する多くの人たちと出会うことができ、いろいろな学ばせてもらいました。また、尾瀬での住み込みの生活に耐えられるか心配していましたが、まわりの人たちに助けられながら何とか無事に今日までやってこることが出来ました。ありがとうございました。

(西川 眞治)

大きな期待に胸を膨らませ、実際に尾瀬で働いてみると、そこは毎日夢のような世界でした。景観や音風景はもろろんのこと、何と言つても最も印象に残つたのは、尾瀬に関わる人たちの人柄が大変素晴らしいことです。

美しい景観や音風景が人を優しい気持ちにし、そついつと気持ちで他人同士が日々接することにより、有機的なコミュニケーションが尾瀬では成り立っているんだなといつことを学びました。優しい気持ちになれる自然豊かな尾瀬を将来世代にもつかりと継承できるように、音風景の視点から尾瀬の豊かさや美しさを伝えていきたいと思つています。

短い間でしたが、尾瀬で出会ったすべての方に感謝します。ありがとうございました

「やっぱり来て良かった！」



尾瀬での生活を振り返つて思うことは「やっぱりきて良かった！」ということ。前職を辞めて尾瀬に訪れた当初は不安の方が勝つていました。ですが尾瀬での植物や生き物、景色、人々との出会いは新しい発見ばかりで不安どころか充実した日々を過ごせました。このような場所を置き、働けたことに深く感謝しています。尾瀬を通して出会えた沢山の感動を、これからの人生の糧にしていきたいと思つています。

(佐野 愛海)

「尾瀬のさくら」



「初めての職場として尾瀬を選んだ。今までのことを思い返すと本当にそう思います。自然とは何か自然と関わりながら働くとは何かを周りの多くの方々に支えられながら、自分なりに学んできたことができました。半年間は本当にあつとついで、尾瀬に上がつてきた日のことも、今でも鮮明に覚えています。充実した楽しい尾瀬での生活もあと少しですが、尾瀬で学んだことを活かして次に繋げていきたいと思つています。本当にありがとうございました。

(上村 麻実)

○外国人モニターツアーを実施しました

近年、尾瀬でも外国人入山者が増加傾向にあると言われていますが、まだ外国人受け入れの際にどういふことが必要なのか明確になっていません。そのため、尾瀬山小屋組合や片品村観光協会、尾瀬認定ガイドなど多くの皆様にご協力いただきながら、そういった課題を抽出することを目的として、9月11日(月)～13日(水)に外国人留学生を対象としたモニターツアーを実施しました。今回は、台湾からの留学生の皆さんに参加していただき、2泊3日の行程で尾瀬ヶ原と尾瀬沼を堪能してもらいました。ここでは、当日の様子を簡単に紹介したいと思います。

▼初めての尾瀬をガイド付きで歩く留学生



1日目は、9時に群馬県高崎駅を出発して、片品村戸倉でオリエンテーションを行いました。合わせて、本ツアーの目的や尾瀬国立公園内でのルール・マナーを周知させてもらいました。基本的には初めて聞く内容だったようですが、台湾にも国立公園があるのが納得できるものでした。13時過ぎ、いよいよ尾瀬歩きが始まります。ガイドさんによる解説を聞きながら、初めての尾瀬の自然や木道、時折見える至仏山などに興奮している様子でした。途中、ツキノワグマ出没注意の看板を紹介すると、ツキノワグマがいることを知らなくて驚いた姿が印象的でした。山ノ鼻地区では、尾瀬山の鼻ビジターセンターの

見学や宿泊する山小屋での生活面についてのレクチャーを行いました。初日の振り返りの中では、事前に情報を入力する手段としてHPをもっと見やすくした方がいいという意見やトイレがチップ制であることに驚いたなどの意見がありました。また、目的地までの距離が分からないと不安になるのも、もう少し看板があってもいいという意見もありました。

▼快適な山小屋の夕食(一例)



2日目は、尾瀬沼まで足を伸ばします。木道などでも少なく、普通の登山道に悪戦苦闘したようすが、尾瀬沼の景色には感動しているようでした。尾瀬沼に到着したら尾瀬沼ビジターセンターを見学し、2日目の山小屋にチャックインします。夕食後のスライドレクチャーでは、尾瀬の自然保護の歴史について簡単に説明しました。同時通訳しながらの進行で、通常のレクチャーよりも時間がかかります。留学生からの意見では、やはり英語ができるスタッフがいた方がいいという意見や施設内の多言語化をもっと進めた方がいいという意見がありました。

3日目、名残惜しみながら大清水へ下山しました。帰った後、留学生の中には自分で尾瀬の絵を描いてSNSに投稿した人もいます。それぞれ初めての尾瀬が良い思い出になったようでした。今回のモニターツアーでは、外国人が尾瀬を体験してどう感じるのか生の声を聞くことができ、その重要性や驚いたり興味を持つポイントの参考になりました。尾瀬ではこれからも外国人入山者の増加が予想されますので、言葉や文化の違いから難しいことも多いですが、関係者と協力しながら対応を検討していけたらと思います。

尾瀬ボランティア情報

このコーナーでは尾瀬ボランティアの活動の様子を紹介いたします。

●尾瀬ボランティア講座を実施しました

6月24日(土)～25日(日)に尾瀬沼地区において「尾瀬ボランティア講座」を実施しました。今年度は8都県(福島、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟)から13名、また群馬県が実施している「ぐんま環境学校(エコカレッジ)」から6名の参加があり、合わせて19名の新人ボランティアが誕生しました。

当講座は、新たに尾瀬ボランティアへ登録を希望する方の研修と先輩ボランティアとの交流を目的としたもので、山ノ鼻地区と尾瀬沼地区を隔年で実施しています。

まず最初にボランティア同士の自己紹介。これから共に活動する仲間と交流を深めました。続いて、尾瀬国立公園の保護のしくみ、尾瀬の保護の歴史、尾瀬の自然、尾瀬ボランティアに関する講義を行いました。夜は尾瀬沼ビジターセンターで実施しているスライドショーの上映、その後ビジターセンター職員も交えて交流会を行いました。

▼自己紹介の様子



2日目最初は、尾瀬沼ビジターセンターで実施している朝の自然観察会を体験。朝降っていた雨も直前に止み、雨に降られず実施できました。続いて、ベテランボランティアを招いて、大清水と沼山峠の2班に分かれて美

化清掃活動（ゴミ拾い）を実施。一見ゴミが落ちていないように見えてもよく探すとたくさん細かいゴミがあり、特に今年は虫除けシールが目立ちました。研修の締めくくりは、尾瀬ボランティア活動の基本中の基本の入山口啓発活動。ボランティアから入山口啓発活動の大切さを解説していただきました。

▼入山口で熱心に話を聞く受講生の様子



● 棧木打ちボランティアを実施しました

棧木（さんぎ）とは、傾斜のある木道の表面に滑り止めとして設置される木材のことで、木道の延長方向に対して垂直につけることから、横木（よこぎ）とも言われます。雨で濡れた木道や樹林帯内など湿った環境にありコケが生えた木道、また、霜が降りた木道は非常に滑りやすいため、転んだ経験がある方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

▼ 棧木を打つボランティアの様子



そこで、群馬県の棧木打ち活動の推進に協力するため、7月4日（火）、7月8日（土）の2日間、二平峠周辺の群馬県管理木

道の棧木打ちボランティアを実施しました。この活動は、今年初めての試みで、群馬県の指導のもと、東京パワーテックノロジー（株）尾瀬林業事業所の方を講師に招き、両日計17名のボランティアの参加で実施しました。どの場所に棧木打つことが効果的なのかや、棧木が割れないようにする打ち方などの説明を受け、実際に木道に棧木を打ち込みました。

● インタープリテーション研修を実施しました

9月9日（土）～11日（月）、群馬県利根郡片品村（戸倉および山ノ鼻）にて「第13回インタープリテーション研修」を実施しました。これは、尾瀬ボランティアに登録して日ごろ入山口啓発活動や巡回美化（清掃）活動に取り組んでいる皆さんを対象に、自然解説の技術（インタープリテーション）を身につけていただき、今後のボランティア活動の幅を広げていただくことを目指したものです。

講師に若林正浩氏（公益財団法人キープ協会所属 那須平成の森フィールドセンター長）をお招きし、尾瀬ボランティア12名の参加で実施しました。

1日目の会場は尾瀬ぐらり館と十二ノ森公園。まず始めに、「ネームトス」や「フープ返し」などのアイスブレイクを行い、受講生同士の名前を覚えたり、共同作業をすることで緊張をほぐしました。その後、野外に出て十二ノ森公園に移動し、グループに分かれて「はっぱジャンケン」「同じ色探し」などのプログラムを体験しました。身近な自然でもよく観察することによつ

▼「同じ色探し」の様子



て、多く発見や驚きがあることに気づかされました。2日目はいよいよ山ノ鼻に向けて出発。移動の途中、山の川上川橋付近ではクマガが木に登り採食する姿も見られました。山ノ鼻に到着後、午前はコミュニケーション実習を行いました。ある物語に登場する人物たちの好感度の順位付けを個人で行った後、グループに分かれて意見をまとめるという作業を行いました。人によって色々な見方や感じ方があることや、グループワークで意思決定をする際に大切なことなどを学びました。午後は、グループごとにテーマを決め、解説の補助素材となる「解説ユニット」の作成。最初はどんなテーマにするか戸惑いがみられました。最初はテーマが決まった後は黙々と作業に取りかかり、夕食後もすべてのグループが自主的に作業を進めるなど、意識の高さが伺えました。

3日目の朝、目覚ましに「実況中継」というコミュニケーション実習を行いました。目から入るものや五感で感じたものを実況するもので、ラジオの実況中継のようなイメージです。聞く側は目をつぶります。即興で解説を考えなければならなかったため、受講生の皆さんは苦戦しているようでしたが、良い訓練、良い目覚ましになっていたようでした。研修の締めくくりはグループごとの「解説ユニット」を使った発表です。研究見本園に出て実際に湿原を見せながらの解説や、実体験を交えた解説、絵を描いたフリップを使用した解説など、どのグループも完成度の高い発表となりました。

2泊3日の研修で受講生の仲間の輪が広がったことも、これからの活動に繋がってゆくものと思います。

▼ 解説ユニットを使った発表の様子



寄付のお願い

尾瀬保護財団では広く寄付をお願いしております。

当財団は、尾瀬国立公園において、利用者に対し自然への理解を深めるための解説活動や、適正な利用に関する普及啓発を実施するとともに、各種の環境保全対策や施設の管理運営等を行ない、尾瀬の優れた自然環境の保全に寄与する活動を続けております。



◆個人住民税の寄付金控除の対象に尾瀬保護財団が指定されました。

個人住民税の寄付金税制の拡充により、各都道府県・市区町村が条例で指定した法人に対する寄付が、住民税の控除対象となるようになりました。尾瀬保護財団は下記の県・市・町から指定を受けています。(財団への寄付を行った翌年1月1日にこれらの県・市・町にお住まいの個人が対象となります。)

福島県、群馬県にお住まいの寄付者：個人県民税

福島県富岡町、群馬県前橋市、群馬県高崎市、群馬県桐生市にお住まいの方：個人県民税と個人市民税・町民税

◆また、尾瀬保護財団は「公益財団法人」に認定されており、当財団への寄付は所得税・法人税の優遇措置を受けることができます。

※なお、所得税、住民税控除の対象となる方には、領収書の送付時にご案内資料等をお送りします。

◆企業・団体の皆様とより良いパートナーシップを築けるよう、特別協賛寄付、協賛寄付の制度があります。詳細は財団事務局（群馬県庁15階・027-220-4431）にお問い合わせください。

■寄付につきましては、財団事務局（群馬県庁15階・027-220-4431）にご来訪いただくか、財団にご連絡の上、下記口座にお振込をお願いいたします。

福島県	東邦銀行県庁支店	普通	1078095
	福島銀行本店営業部	普通	0590088
	大東銀行福島支店	普通	1287138
群馬県	群馬銀行県庁支店	普通	0515428
	東和銀行本店営業部	普通	0975531

新潟県	第四銀行県庁支店	普通	1182791
	北越銀行県庁支店	普通	0199366
	大光銀行新潟支店	普通	0837334

特別協賛寄付者のご紹介

※10月26日現在の寄付日順、敬称略



株式会社エコ計画 環境・食・貢献をテーマに事業を展開している企業として、「豊かで美しい尾瀬の自然を後世にまで伝える」という当財団の趣旨に賛同いただき、社会貢献事業の一環として100万円のご寄付をいただきました。寄付は、今回で2回目となります。(通算寄付総額 2,000,000円)

寄付者からのメッセージ：エコ計画は、1970年創業の総合リサイクル企業で「環境・食・貢献」をテーマに事業を展開。群馬県では、1981年に事業を開始し、古民家を移築した自家源泉を備える2つの直営旅館に加え、高崎市倉沢町には、フォレストストック認定取得の社有林(約1,000ha)を保有、森林整備を通じ、自然環境保護に取り組んでいます。尾瀬は、日本の自然保護の原点でもあり、貴財団の趣旨に賛同、寄付をさせていただきました。今後も地域社会との共生、発展に貢献して参ります。



Minakami Kogen
Hotel 200

水上高原ホテル200(水上高原リゾート株式会社) 水上より坤六峠を越えて尾瀬に入るツアーを同社が経営されているホテル(水上高原ホテル200)で実施されており、その収益の一部として30万円のご寄付をいただきました。また、ホテル内で募金を実施していただき、その募金額をご寄付いただきました。同社からの寄付は、今回で5回目となります。(通算寄付総額 1,449,292円) 寄付者からのメッセージ：環境保全と共に尾瀬の雄大な自然と楽しさ・魅力を伝えて参ります。

SAVE ON

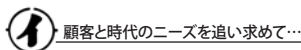
株式会社セーブオン 群馬、新潟、福島県内のセーブオン全店舗において、尾瀬環境保全募金を実施していただき、その募金額をご寄付いただきました。(通算寄付総額 7,808,403円)

寄付者からのメッセージ：(株)セーブオンでは、「尾瀬国立公園」が位置する群馬県・新潟県・福島県の店頭にて募金を実施し、多くのお客様に寄付をお寄せいただきました。ご協力頂いたすべてのお客様に深く感謝いたします。今後も、尾瀬の貴重な自然環境を後世まで末永く守り続けるための活動を応援してまいります。

Asahi
アサヒビール株式会社

アサヒビール(株)群馬支社 これまで継続してご支援をいただいていた「うまい!を明日へ!」プロジェクトによるご寄付は平成26年度で終了となりましたが、今後も当財団への支援を続けていきたいというアサヒビール群馬支社様のご厚意により、平成27年度は100万円のご寄付をいただきました。(通算寄付総額 28,957,751円)

寄付者からのメッセージ：アサヒビール(株)群馬支社では、地域との共生や地域貢献を目標に掲げ、2009年春から、全国活動の一環として群馬県内での売上の一部を尾瀬保護財団様へ寄付させていただいてまいりました。今後は群馬支社独自の取り組みとしての寄付継続を含め、県民の皆様とともに環境保全を進めていきたいと考えています。群馬県の子供たちの未来のために、お役に立てただけなら幸いです。



糸井商事(株)

糸井商事株式会社 当財団の設立の趣旨と活動内容に賛同いただき、100万円のご寄付をいただきました。今後もご支援をいただく予定です。(通算寄付総額 1,000,000円)

寄付者からのメッセージ：糸井商事は昭和21年創業、今年で70周年を迎えました。「顧客と時代のニーズを追い求め続けます。」と「会社の繁栄、社員の幸福、地域社会への貢献を三位一体で推し進めます。」を経営理念に掲げ、地域にとって存在価値のあり続ける企業を目指しています。社長が球団代表を兼ねている群馬ダイヤモンドペガサスの活動と合わせながら、尾瀬の自然環境保護の応援をさせていただきます。



株式会社福島銀行 平成24年11月に発売された「ふくぎんエコ定期『みんなの尾瀬』」の平成29年3月末現在残高の0.01%に相当する、1,018万円余のご寄付をいただきました。(通算寄付総額 47,447,843円) また、昨年度に引き続き街頭募金活動を実施いただき、10万円をご寄付いただきました。(募金総額 339,986円)
 寄付者からのメッセージ：福島銀行は、中期経営計画「ふくぎん本気(マジ)宣言」の基本方針の中で、社会貢献の取組強化を掲げております。「ふくぎんエコ定期『みんなの尾瀬』」では、お預け入れ頂いた同預金の年度末残高の0.01%相当額を尾瀬保護財団へ寄付させて頂いており、趣旨にご賛同頂いた多数のお客様より永年ご支持を頂いております。かけがえのない尾瀬の自然を守るため、福島銀行はお客様と共に、これからも積極的に保護活動に取組んで参ります。



共和工業株式会社(三条市上須頃) 当財団の設立の趣旨と活動内容に賛同していただき、尾瀬の保全に役立てて欲しいと、ご寄付をいただきました。同社からのご寄付は、今回で8回目となります。(通算寄付総額 1,400,000円)
 寄付者からのメッセージ：共和は太陽光発電事業など自然保護を支援してまいります。



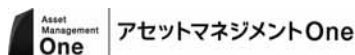
株式会社 明治 (株明治様の群馬工場で使用される水の水源でもある、尾瀬の自然環境を後世まで守り、次代に繋げていくことで、社会そして子どもたちの未来に役立てていただきたいとの想いで、35万円のご寄付をいただきました。(通算寄付総額 1,250,000円)
 寄付者からのメッセージ：株明治は、自らの事業が豊かな自然の恵みの上に成り立っていることを認識し、持続可能な社会の実現に貢献していきます。その一環として、尾瀬の貴重な自然環境が守られるための保全活動の一助になる事を期待し、寄付させていただきました。今回の寄付金が有効に活用され、尾瀬の美しい自然環境が未来へ引き継がれていく事を願い、支援を継続してまいります。

尾瀬 紀行

尾瀬紀行(信託ファンド)で收受した信託報酬の一部として総額 411 万円余りをご寄付いただきました。平成 19 年より今回が 11 回目のご寄付となります。(通算寄付総額 64,484,337 円)



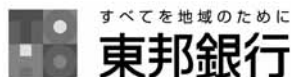
第四証券株式会社 今年度は4万円余りをご寄付いただきました。(通算寄付総額 1,768,445円)
 寄付者からのメッセージ：尾瀬の自然環境を後世まで未永く守り続けるために今回の寄付金が有効に活用されることを期待しております。第四証券は第四銀行グループとして、これからも尾瀬の自然環境保護を支援すると共に、地域社会の発展に貢献してまいります。



アセットマネジメント One 株式会社 今年度は205万円余りをご寄付いただきました。(通算寄付総額 32,242,169円)
 寄付者からのメッセージ：私たちは、投資信託を通じて尾瀬保護財団に寄付を行っています。



株式会社第四銀行 今年度は22万円余りをご寄付いただきました。(通算寄付総額 6,415,719円)
 寄付者からのメッセージ：尾瀬の自然環境を後世まで未永く守り続けるため、今回の寄付金が有効に活用されることを期待しております。第四銀行はこれからも尾瀬の自然環境保護を支援すると共に、地域社会の発展に貢献してまいります。



株式会社東邦銀行 今年度は72万円余りをご寄付いただきました。(通算寄付総額 11,276,624円)
 寄付者からのメッセージ：尾瀬の自然環境を後世まで未永く守り続けることを目的として、当ファンドの販売・運用を通じて地域社会の発展に貢献するとともに、広く尾瀬の自然を愛する皆様と共に力を尽くしていく所存であります。今後とも積極的にCSR(企業の社会的責任)を重視して取組んで参ります。



株式会社群馬銀行 今年度は112万円余りをご寄付いただきました。(財団設立当初からの寄付を含め、通算寄付総額 31,083,780円)
 寄付者からのメッセージ：信託報酬の一部が尾瀬保護財団への寄付となる仕組みの投資信託を取扱っており、多くのお客様の善意の集大成を寄付させて頂きました。趣旨にご賛同頂き投資信託をご購入頂いた全てのお客様に深く感謝いたします。

協賛寄付者のご紹介

※10月26日現在の寄付日順、敬称略

群馬トヨペット株式会社

当財団の設立の趣旨と活動内容に賛同していただき、30万円のご寄付をいただきました。環境とお客様とのふれあいを大切にする群馬トヨペットは、尾瀬の優れた自然環境を保全する活動主旨に賛同し寄付を始めていただきました。尾瀬の美しい自然環境を守り続けられるよう支援を継続していく予定です。(通算寄付総額 300,000円)

一般財団法人 群馬県警察厚生会

当財団の設立の趣旨と活動内容に賛同していただき、尾瀬の美しい自然が後世の人々に引き継がれるよう活動に役立てて欲しいと、ご寄付をいただきました。平成23年度から毎年ご寄付をいただき、今回で7回目となります。(通算寄付総額 700,000円)

株式会社二チネン

株式会社二チネン様が片品村の尾瀬工場(平成19年4月に設立)で生産し、販売するミネラルウォーター「尾瀬の湧き水」の収益の一部を、尾瀬の自然環境保全のために役立てて欲しいと、ご寄付をいただきました。平成19年度から毎年ご寄付をいただき、今回で11回目となります。(通算寄付総額 1,100,000円)

株式会社とりせん

当財団の自然保護活動に活用してもらいたいとの趣旨で、10万円のご寄付をいただきました。株式会社とりせん様からは、平成21年に株式会社とりせん創立60周年を記念して、環境保全に寄与するという目的で社員の皆様が募金活動を実施し、その収益をご寄付いただいております。同社からのご寄付は通算で5回目となりました。今後ともご支援をいただく予定です。(通算寄付総額 1,458,391円)

糸井商事株式会社

当財団の設立の趣旨と活動内容に賛同いただき、10万円のご寄付をいただきました。今後ともご支援をいただく予定です。(通算寄付総額 100,000円)

株式会社読売旅行

当財団の設立の趣旨と活動内容に賛同していただき、10万円のご寄付をいただきました。今回が3年わたるご支援の3年目となります。平成29年度からの3年間についても引き続きご支援をいただく予定です。(通算寄付総額 300,000円)

ヤマトリカブト

漢字で書くと「山鳥兜」となり、鳥兜とは舞をするときにかぶる鳳凰の頭部を模したかぶり物だ。

外から見える5枚の顎片は青紫色で、写真では兜型の顎片を縦に切り、内部を示した。そこにはカタカナのイの字形（ちょっと無理かな）の蜜腺が2つ納まっていた。後ろの紺色の部分に蜜があり、マルハナバチが吸いに来るのだが人には有毒で、試しになめた勇者は1日ほど唇が腫れていたと言っていた。切らずに見るなら、顎片の散りかけた花を探すといい。ちょうど、蜜を舐めにくる虫たちの背に花粉がつく絶好の位置である。アオヤギソウの花は小さいが、巧妙な受粉の仕掛けをそなえているのだ。（フラワーエコロジスト 田中 肇）



イベント情報

※予定は変更になる場合があります

●郡山展（第21回写真展）

【開催期間】
平成29年12月12日(火)～21日(木)
午前8時30分～午後5時
※土日祝日 休館

【会場】
郡山市役所 本庁舎一階 市民ギャラリー
(福島県郡山市朝日1丁目23-7)
(TEL: 024-924-2491)

第21回NHK「わたしの尾瀬」写真展

●高崎展（第22回写真展）

【開催期間】
平成29年12月15日(金)～20日(水)

【会場】
高崎市シティギャラリー 第2展示室
(群馬県高崎市高松町35-1) (TEL: 027-328-5050)

●前橋展（第22回写真展）

【開催期間】
平成30年1月12日(金)～17日(水)

【会場】
群馬県庁1階県民ホール (TEL: 027-223-1111)

『友の会』コーナー

「友の会」は豊かな尾瀬の自然を守る財団の活動を支援して下さる方々の集まりです。

※加入・更新時期は年4回（5月・8月・11月・2月）です

2月1日からの加入・更新をご希望の方は
12月31日までに会費の納入をお願いします。

【年会費】

個人	個人会員	1口 2,000円
	家族会員 (個人会員と同居の家族)	1口 1,500円
	ユース会員 (加入又は更新時に満22歳以下)	1口 1,500円
	賛助会員 (団体 企業等)	1口 10,000円
	特別会員 (企業等)	3年に渡る30万円以上の寄付または1回100万円以上の寄付

【特典について】

※友の会に加入された方には、以下の特典を提供させていただきます。

- 友の会会員バッチ進呈、各種資料送付（初回加入時のみ）
- 財団機関誌：郵送にてお配りします
- 宿泊割引：尾瀬戸倉、檜枝岐村周辺宿泊割引（休日、祝祭日前等の除外日があります。）
- 尾瀬周辺施設利用料割引：対象施設等の詳細は財団ホームページでご確認ください。

<https://www.oze-fnd.or.jp>

●●● 編集後記 ●●●

早くも尾瀬のシーズンが終了します。夏までは長く感じたのですが、9月からはあっという間でした。年々早く感じるのは私だけでしょうか。今年は尾瀬国立公園10周年という記念すべき年でしたが、夏場は長雨が続きあまり晴れ間が無かったようです。雨の尾瀬も素晴らしいとは思いつつ、どうせなら晴れて欲しいと願ってしまいますね。そしてこれからは冬が始まります。今年は、例年並みに雪が降って欲しいものです。（宇野）



(公財)尾瀬保護財団
スマートフォンサイト
情報配信中

緊急情報
お知らせ
ライブ映像
など

尾瀬の情報を随時発信します

ツイッター
尾瀬情報配信中

